

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 1 月 5 日作成)

小委員会名	環境配慮型都市デザイン検討小委員会		主 査 名：吉田 聡 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (都市環境・都市設備運営委員会)		委員長名：田辺 新一 主 査 名：下田 吉之
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	現在様々な都市で進められつつある環境配慮型都市づくりに対して、都市環境工学研究分野から如何に貢献できるか、これまでの研究の蓄積を再整理するとともに、新たに取り組むべき課題、デザインにつなげる方法について議論する。 ・初年度「第2回都市環境デザインフォーラムの企画」 ・2年度「第3回都市環境デザインフォーラムの企画」		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無 吉田聡(横国大) 増田幸宏(芝浦工大) 三坂育正(日本工大) 竹林英樹(神戸大) 田中貴宏(広島大) 赤川宏幸(大林組) 宮崎ひろ志(関西大学) 原英嗣(国土館大) 小柳秀光(大成建設)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2013 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	第3回都市環境デザインフォーラム「2020年東京五輪を契機に考えるこれからの都市環境デザイン」(主催；都市環境・都市設備運営委員会)の企画・運営を担当し、99名の参加を得た。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 2.

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

20 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本小委員会は、都市環境・都市設備運営委員会が主催する都市環境デザインフォーラムの企画を通して、低炭素都市づくり、スマートシティあるいはスマートコミュニティ等に象徴されるような、現在様々な都市で進められつつある環境配慮型都市づくりに対して、都市環境工学研究分野から如何に貢献できるか、これまでの研究の蓄積を再整理するとともに、新たに取り組むべき課題、デザインにつなげる方法について議論し、成果を発信していく使命を持っている。</p> <p>2014年度は、「2020年東京五輪を契機に考えるこれからの都市環境デザイン」というテーマで第3回都市環境デザインフォーラムを企画し、2014年11月10日に開催した。参加者は99名（登壇者などの関係者を入れると約110名）であった。</p> <p>環境省山根氏から暑熱期開催の東京五輪に向けてヒートアイランド対策がこれまでの「緩和策」に「適応策」を加える重要性等について、明治大学市川教授から国際的な都市間比較における東京の強みと弱み等について基調講演を頂き、その後のパネルディスカッションでは、東京大学横張教授、環境省山根氏、芝浦工大村上教授、日本工大成田教授の4名からこれからの都市環境デザインにとってのキーワードを紹介いただき有意義なディスカッションを行った。後援団体、会員外から20名、学生49名の参加もあり、有益なフォーラムになったと考える。また、このフォーラムの企画に際して、都市環境・都市設備の各分野で「これからの都市環境デザイン」についての議論を行い、各分野での研究蓄積の現状把握と課題整理がなされ、次年度以降の研究委員会の計画がなされた点は評価したい。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。